

「櫃ヶ迫郷土芸能浅山棒踊り保存会」

薩摩郡さつま町神子827-5

代表者：繆坂 眞純

1、概要、形態

かし
櫛の六尺棒と、三尺木刀を試合形式に、棒術「浅山流の影響が濃厚」の武芸を踊り化した棒踊りで「浅山棒」と呼ぶ。町誌より、道歌「参る、今こそ参る、神にももの詣る」歌い手が唄い、踊り手が右列に六尺棒、左列に三尺木刀が厳かに入場、歌詞は短い、約1分20秒位、長く引っぱって唄い、踊りの間隔をとる。

踊り歌「おせろが山は、前はたいかわ大川」

「焼け野のきじは、丘の背に添う」

1回目の踊りが終わったら、先頭から順に後の方へ移動、今まで一番後が先頭に2回目の踊りへ



2、活動の経緯



昔から当地に伝承されていたようですが、第二次世界大戦で一時途絶え、諸先輩方の努力により復活。本格的には、昭和37年に鶴田小学校と、神子小学校が統合して、現在地の櫃ヶ迫に建設された頃、先輩方が浅山棒踊りの保存・伝承の重要性を察知、小学児童に指導が始められた。手元の資料では、昭和63年頃に、鶴田町の芸能保存補助金制度が施行され、本格的な青少年健全育成と、

大人と児童とふれあいが深められる機会になった。

私達のこうし神子区には、かみしもおおさこ上下大迫、大野集落に坊主棒踊りという珍しい棒踊りがあるが、現在は活動を停止している。いづれ復活を期待する。そのため、神子の代表に櫃ヶ迫浅山棒踊りが指名されるようになった。

平成14年に町文化協会にも加入、一段と活動の場が広まった。

3、今後の課題と目標

私達の地域は戸数50戸位のごく小さな集落で、少子高齢化や忙しい社会の波に押され、健康上の都合や、引退・死亡等で会員も減少傾向にあり、会員確保に苦慮している。対策として、先程記した「坊主棒踊り」と「浅山棒踊り」を神子区全域に広げて賛同者を募り、保存・伝承に取り組んで一人でも多くの会員を殖やす対策を講じないと、存続の危機を脱することはできない、と実感している。

毎年鶴田小学校5、6年生「約45名」の児童に運動会で棒踊りを演技披露するため、私達5、6名で5、6回指導している。児童は以前撮影したビデオテープを観て練習を重ねて、大筋の踊りは把握しており、細かい点を重点的に指導、襷の調整、入退場の仕方を練習して本番に備える。

運動会当日は指導員も児童の先頭に立って誘導、一緒に踊り、観客から賞賛を得ている。

児童の緊張した顔も無事踊り終えた満足感で笑顔がこぼれている。今後も、一人でも多くの児童が伝承の意義を理解して活躍してくれることを期待したい。

この棒踊りの練習を活用して、町内の特別養護老人ホームを慰問に訪れ、ボランティア活動の傍ら棒踊りを披露して、老人の方々とふれあい交流の場に役立っている。

残念なことに町の芸能保存活動補助金制度も、平成19年で廃止され、活動運営に苦慮しているのが実情である。幾多の問題を抱えての芸能保存、伝承活動ではあるが、区民の皆様の協力を得ながら、頑張っていきたい。

